

増子記念病院 腎臓病総合医療センターについて

増子記念病院では「新たな国民病」として大きな課題となっている慢性腎臓病・慢性腎不全に積極的に取り組むため「腎臓病総合医療センター」をスタートさせました。

増子記念病院の腎臓病診療は昭和48年の血液透析療法から始まり、その後、尿検査異常、各種腎臓病、腎障害を惹起する全身性疾患の診断と治療へと拡大してきました。特に、腎代替療法が必要な患者さんへの血液透析療法には積極的に取り組んできました。腎臓病の基礎疾患は、各種糸球体疾患、膠原病性腎症、自己免疫疾患、高血圧や糖尿病などの生活習慣病、薬剤性腎障害など多岐にわたり、早期診断と最適な治療選択が重要です。腎臓内科では、腎生検診断と病態解析に基づく積極的治療を実施し、多くの腎臓病を治癒・軽快させることができるようになりました。すでに進行した高度腎機能障害に対しても、腎保護療法に加え、適正な食事療法により腎臓病の進行・悪化の鈍化が期待できます。腎臓病への対策として、腎臓内科スタッフの充実、専門知識豊富な慢性腎臓病（CKD）エキスパートスタッフを看護師主体に育成、腎臓リハビリによる元気な生活担保、管理栄養士による調理実習を含めたますわ会での指導に加え各種療養相談などに取り組んでいます。腎機能低下した患者さんへの腎機能障害認定は患者さんご家族の負担軽減につながります。

末期腎不全への腎代替療法として腹膜透析を含めた全ての透析療法に加え、腎移植も行っています。増子記念病院は東海地方で第1例の死体腎移植が行われた歴史もあり、生体腎移植も再開しました。優れた実績で高い評価を受けている腎移植専門医師が複数着任し、腎移植科外来では350名以上の腎移植後患者さんが治療を継続しています。

腎臓病の診療では泌尿器科との連携が最適の治療に不可欠です。腎臓病全般に広い知識を有する泌尿器科専門医師が常勤医として腎臓病総合医療センターの役割を支えています。

進行した慢性腎臓病では、心臓、脳、血管など全身性合併症が大きな課題となります。増子記念病院の腎臓病総合医療センターの診療を、シャント外科医、糖尿病・内分泌科医、循環器内科医、神経内科医、血管外科医、消化器内科医、消化器外科医などが支えてくれます。

腎臓病総合医療センター 医師紹介

<腎臓内科>

両角國男（日本腎臓学会、日本透析医学会、日本移植学会、日本臨床腎移植学会：専門医、認定医、指導医、移植腎病理研究会代表幹事）

山崎親雄（日本腎臓学会、日本透析医学会：専門医、指導医 および日本透析医会前会長）

森弘卓延 安田 香（日本腎臓学会、日本透析医学会：専門医、指導医）

近藤千華（日本腎臓学会：専門医） 白澤祐一（日本腎臓学会、日本透析医学会：専門医）

佐藤 諒（日本腎臓学会、日本透析医学会：専門医）

<腎移植科>

打田和治（日本臨床腎移植学会 前理事、愛知医科大学寄付講座前教授）

西平守邦（日本臨床腎移植学会、日本腎臓学会、日本透析医学会：認定医、専門医）

<泌尿器科>

植木常雄（日本泌尿器科学会 専門医・指導医、日本臨床腎移植学会 認定医）

全ての慢性腎臓病、腎代替療法が必要な腎不全、腎尿路疾患などに対し、増子記念病院の腎臓病総合医療センターは積極的に取り組んでいきます。病診・病病の医療連携を通じて、皆様のお役に立つことができればと願っております。よろしくごお願い申し上げます。